

平成24年度 第3回福島町まちづくり町民フォーラム

(開会6:00時)

○事務局

それでは、時間になりましたので、第3回のまちづくり町民フォーラムを開催したいと思います。いつも出てきてもらっている方々が多いんですけども、再度復習みたいな格好で、平成23年度から約68名集まってもらって検討をしてもらった部分を提言という格好で、今年度は福島町の目指す方向性ということで、多様な雇用・就労の場の確保と、子供や若者の場の居場所づくりと、学びと実業の連動、住環境の整備、地域の資源を活かした機能分担ということで、大項目として、目指す方向性、5項目を行ってきまして、前回までで3項目ですね。多様な雇用・就労の場の確保と子どもや若者の場所の居場所づくり、学びと実業の連動ということで、それに向かって、目指す方向に向かっての課題の解決ということで、いろいろ検討をしていただけてきました。

本日は、第3回目ということで、残された住環境の整備と、地域の資源を活かした機能分担という部分の項目を検討していただきまして、皆さんの方の意見を出す場の部分は、今回とりあえず仕切りがつくようような格好で、残りの方はまちづくり推進委員さんを含めて、その検討課題の部分の肉付けなり、法案を作っていく部分での

調整をやる格好でありますけれども、とりあえず今日の部分で皆さんも出せる意見の部分はある程度大きい所はいったん仕切りがつきますので、長い期間色々検討をしてもらいましたが、まだちょっと若干続きますけれども、色々また協力をしてもらえればと思います。

本日は、会議に先立ちまして、新町長になりました、佐藤町長の方から一言ご挨拶をいただきたいと思いますので、町長よろしくお願ひします。

○佐藤町長

おばんでございます。お仕事が終わったのフォーラムということで、本当に大変ご苦労様でございます。

これを見ましたら、もう第3回ということでだいぶ煮詰まっているんじゃないかなと思いました。そして、タイトルを見たら、定住促進と少子化対策ということで、僕が1週間選挙の間に町民の皆さんに訴えたそれがこの公約なんです。少子化対策、そしてこの雇用の問題。若者の仕事の場ということですよ。これが、皆様によっていろいろ議論されているということに対してすごく感動しました。今日は、たぶん今日で最後になるというふうに聞いていますので、ある程度皆さんの方で煮詰めていただいて、まちづく

り推進会議の方と一緒にまた、話し合いをしていただきたいと思います。町づくり推進会議にこの前出たんですけれども、平均年齢は皆さんの2倍くらいの年齢で、もしかしたら頭が固い人もいるのかな、でもしっかりしたまちづくり推進会議の皆さんでいらっしゃいます。でも、皆の方はやはり柔らかい、ソフトな発想で、色々なアイデアを出していけるんじゃないかなと思っております。

私は、個人的には若いと思っていたんですよ。政治の世界では50と言え、若いんですけれども、皆さんからすると、やっぱりお年寄りなのかな、おじいちゃんに近い歳になるのかなと、そういうふうに思っております。でも、学生塾とかもやっています、小学生・中学生とかと一緒に仕事してきた関係で、若い考えかも知れませんが、気持ち的には若いと思っておりますので、皆さんと共通する部分、たくさんあると思います

今日は、一日色んないい案を出していただいて、町の方に提言をしていただければと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

○事務局

ありがとうございます。今、町長の挨拶にあったとおり、福島町としても進めていく政策の一つになりますので、今来ていただいている方の気持ち、自分達が将来住む町になりますので、自分達が住むのであればこうしたいという気持ちは当然あると思いますし、町外の人でもそれを見て来たいとい

う格好になる政策につなげていけるよう、意見の方を色々出し合ってもらいたいと思います。それでは、会議の進行については、いつも通りぎょうせいの廣地先生の方をお願いしたいと思います。それでは、お願いいたします。○ぎょうせい

皆さんこんにちは、今晚もよろしく願いいたします。皆さんお疲れのところね。参加者の方も少ないので、少数精鋭ということもありますから、頑張ってください。

それで、今日のタイトルは住環境の整備ということで、先ほど新町長さんの公約の一つでもある、定住促進ですね、少子化対策。まさしく、ここのところで、皆さん方の意見が整理をされて町長さんに提言できると、このフォーラムでの意味もあるというふうに思うので、ぜひ、次回も頑張ってくださいと思います。今日は人数が少ないから、ご自分の言いたいこと、思っていることをたくさん出していただけるんじゃないかと思って、よろしく願いいたします。

一つ、今日の資料の中に、前回の取りまとめたものを一緒につけさせていただいております。前回は、子供の居場所、若者の居場所ということだったんですが、この今日配られた資料の後半部分に載せてありますので、また読んでみてください。これは、皆さん方が前回合同会議で議論されたものが明記してあります。ただ、毎回申しあげているように、私の方で基本的には、若干膨らませたり、縮めたりはし

ていますが、場所の移動だけは大きく入れ替えたりということはありませんので、皆さんの意見をそのまま入れている。ただ、ひとつ今日は、住環境の整備ということと、医療環境の整備、福島地区の活性化ということで、作らせていただいております。この中で非常に重要なことは、住環境の整備の中に、横書きの資料を見ていただくと、Ⅳ住環境の整備、Ⅴ地域の資源を活かした機能分担とそこに書いてあります。実は、課題の2のところに医療環境の整備とあります。これは、去年皆さん方が提言書に書いてくださったときは、一つの柱だったんです、医療環境というのは。ただ、この医療環境について、この町がいろいろやっている中で、単独でおくような項目になりきれない。ということなので、住環境の整備の中に課題に2の方に入れさせていただいたと。ということだけ、ご理解をいただきたいと思えます。

それから、もう一つ今日の中で、今の1の④のところがありますよね、福島町情報バンクの設置というのがあります。これは何かというと、前々回の第1回目のフォーラムをやっていた中に、情報ステーションとかですね、色んないい方で整理をすでにしているんですね。しているんですが、前回はここの部分では何があるかということ、空き家情報というのがここにあったので、ここの住環境の中に一つ入っていますが、今日もし皆さん方がこの前回の第1回りの時の合同会議の内容を思い出しながら、ここで言った

よねということがあるとすれば、私今何が言いたいかというと、④は、今日は飛ばしていただいても多分出てくるのは、第1回りの時と同じようなことになるのではないかなということですから、④はここに入れてあります。ただし、ここでちょっと違うのは空き家情報等の一元化を図り多様化する住民ニーズに直結する第1次情報とこうなっています。ところが、今まで第1回りでやっていただいた時は、あくまでも雇用の場の喪失、就業の場の喪失という中でやってもらっていますから、若干整理が足りないかもしれません。もし、思いつくところがあれば、入れていただくと。それから、課題のⅤの地域の資源を活かした機能分担というのは、実はこの二つしか今載せていませんけれども、前回の提言の中で、まずこの福島町の福島地区、吉岡地区を重点的に議論しようということで進んでいますから、二手に分かれています。当然千軒もありますし、いろいろ地区はあるわけですね。特に観光情報の中に前回、議論をしていた時にはもっといろんな地域の特性がありました。ですから、今日はまず福島地区の活性化と吉岡地区の活性化について、意見をまとめてもらいますが、どうしても何か入れておきたいというものがあれば、余白の部分に地区を作って皆さんの意見を出しておいてもらえれば、それはそれで、また合同会議に向けて整理をして行く、ということにさせていただきます。

それから、申し訳ないんですが、今

日はリーダーの方が産休か何かだということなので、申し訳ないお二方こっちへ入っていただいて、二つのグループでやっていただいていたいいですか？今回は前回とは違って個別のグループ分かれた議題ではありませんので。

今から、20分間はこの横書きのA3の中の、分ければ7つですけれども、これについては20分、今から6時30まででご自分の意見をこのA3の方に書いてください。これは、一人の作業です。一人の作業で自分の意見を書いたあとに、6時30分～7時30分まではグループ討議という形にしますので、この住環境の整備、若者定住住宅の整備というところから作業を始めてください。お願いします。

(各 自 作 業)

○ぎょうせい

では、まず1グループからお願いします。

○1グループ

まず、若者定住住宅の整備の部分なんですけれども、まず定住するに当たってですけれども、収入が少ない人については、今ある既存の町営住宅が該当するのではないのかなと。そのうちの、町営住宅に入れない中間層をまずターゲットにして、整備をしたほうがいいのではないかという話になっていました。方法としては、空き家をリフォームして使う。その空き家に対しても、今も補助金とかあるんですけれ

ども、それをもう少し使い勝手がいいとか、額を増やしたものを、助成したほうがいいのではないかと。

あとは、シェアハウスとして空き家を活用して、シェアハウスについてはちょっと暮らしとか、短期間の仮住まいと言ったら変かもしれませんが、短期間の入居者も住めるような形というのが、シェアハウスについては整備ができるのではないかという意見が出ていました。

あと、丸山団地の町営住宅の改修をしていて、これからどういうふうなスケジュールになっているか分からないんですけれども、もしその改修工事があるのであれば、若者専用の、単身の棟を作ったほうがいいのではないかというような意見が出ました。

あと、民間でその若者向けとか一般向けもそうなんですけれども、アパートを買う場合の、町の土地とかを買う場合の助成とかですね。あとは専門的に管理できる管理会社を作ったらどうかというような意見が出ました。

あと、民間のアパートを建てても空室が出れば、民間の方もなかなか建てにくいだろうということもあるものですから、そういう空き家情報とか、空室情報を積極的に提供できるようなシステムなり体制をしたほうがいいというような意見が出ました。

その方法については、ホームページの方に案内をするというような方法もありますし、町の方に専用のコーナーとか、掲示板等を作って案内をするというような方法があるのではない

かというような意見でした。

重要度・緊急度については、ともに高いというような話でした。以上です。

○ぎょうせい

じゃあ、2グループ発表したあとにお互いに何かあればということにしましょう。2グループお願いします。
○2グループ

2グループについて、今1グループが言った内容とほとんど同じです。補足するような格好にしますと、補足になるのか分からないんですけども、今の言っていた交流施設という部分で、今流行りなのか分からないんですけども、ルームシェアという部分で人の呼び込みとかっていう施設も、その若者向けの住宅としては、そういう部分もありなのではという格好になります。その他の部分については、同じなんですけれども、実際に言われる部分は、町内、町外も含めてなんですけど、実際住む場所がないという問い合わせって結構来たりするんですよ。空き家のリフォームができればいいんですけども、なかなかそれが進まないという部分で、新しく建てるのかという部分があるんですけども、基本的にそこの部分の情報の提供の仕方とか、空き家の登録とかっていう部分も含めて、基礎的な部分もある程度進めていかないと、建てたとか使うとかっていう部分でも一部の分かっている人だけしか利用できないという部分があるので、本当のソフト的な面でも進めて行かなければならないのかなという部分で思いました。とりあ

えず、意見の部分は以上です。

重要度・緊急度についても同じく高い・高いということで、住む場所がなければ、実際住もうとしている人も町外の方へ行ったりしますので、そういうことで、重要度・緊急度をともに高くつけています。住民・事業者等の役割ということで、基本的にここの部分は、町と建設業者で進めていく話なので、そのお互いの部分でこれからどうやって進めていくかという話を持つ場を設けなければ駄目だという部分でそういうふうにつけました、以上です。

○ぎょうせい

ありがとうございました。お互いに同じような意見だということで、グループ同士での議論は特にありませんか？ちょっと、私今気になったのが、両グループともそうなんですけれども、その空き家の去年議論をした時に、100件位空き家があるというのがありましたよね。町のそのホームページを見ると数件だよ、載っているのが、このギャップ。どんなことになりそうかというのが何か気が付く人はいます？

この先は、今度は町の幹部会か何かで決定してもらわなければいけない内容になるんだと思うんですけども、なぜそういう状況が起きているのか。

○事務局

情報提供はしているんですけども、その情報が広報紙とかっていう部分でも当然、インターネットを見る人

が町のホームページから見られるんですけども、それとは別に広報紙でも年度当初なりという部分で、配信しているんですよ。ただ、その回数的には、毎月出せればいいんですけども、それが低いのはうちも非があるのは認めるんですけども、それにしても登録してくれるという人もいないというのが、その制度自体を分かっていないのかなという部分もありますし、また、その100件近くある人に個別みたいな恰好で、登録しませんか？という地道な部分をしていかないとたぶん増えないという部分もあると思います。ただ、全部が全部その空き家を使えるのかというと、たぶん登録できないというのを皆分かっていて、100件位あるけれども現在3件だという現状かもしれないんですけども、そこはやる価値はあると思います。

○ぎょうせい

そうすると、ここで何か言わなければいけない、ようするに今年のプロジェクトの報告書でいうとまず利用しなければいけないということがあったとしても、その前段階として、使えそうな家、ちょっと手を加えればという家がどのくらいやるのかというのをまず調べなければ駄目だね。

○1グループ

そうですね、まだやっていないので。空き家のその100件の中にも、実際誰が管理をしているのか分からないものもあるんですよ。その人が亡くなって、その親戚が管理をしていたんですけども、その親戚が亡くなって、そ

の親戚がまた管理をしているというような。一応、誰が管理をしているかという名前は分かっているんですけども、そのコンタクトができないという件数もたぶん何件かはあると思うんですよ。

○ぎょうせい

たぶんこれは、私は他の町で同じような議論をしている中で気になったんですよ。この空き家ってというのが、心配するのは災害なんですね。電気なんかは切つてあるとは思いますが、あるいは何かで火が起きちゃう、火災になった時どうするか、1件だけ燃えればいいけれども、山に燃え移ったとか、色んな事が起きるよね。民家に近い所であれば、民家自体に燃え移るかもしれません。そういうことを考えなければいけないと。

それともう一つ、どちらかでシェアハウスという話が出たんですが、このことについては去年同じ議論をした時に、シェアハウスは駄目だということになったんだよね。また、シェアハウスというのに戻ってきて、提案をしていいのかな。

○1グループ

去年、参加されていなかった方もいて、その中での議論なので去年否定された意見も出てくることもあるんですけども、今回は今回の話ということで。

○ぎょうせい

前回の延長戦で今回があるわけですから、言われてみたらやっぱりそうだなということであって、シェアハウ

スというのが出てくるのであればいいんだけど、前回駄目だと言ったのを今回新しい人が来たからといって、それが入ってしまうと。

というのは、なぜ駄目かというのは福島町はシェアハウスに住むよりもやっぱり戸建住宅とか、あるいはマンションとかそういう便利な所に住みたいと。人と一緒に住むのが嫌だという意見があったよね。

○1グループ

そういう意見は出たんですけども、シェアハウスを活用する人は町民の人ではなく、外から来た人、ちょっと暮らしをする人とか。

○ぎょうせい

それで、3か月という短期なの？

○1グループ

そういう人を対象としたシェアハウスということなんです。

○ぎょうせい

それは、例えばこの空き家の活用でいうと、目的はなんなの？その3か月住ませるときに、例えば田舎暮らししてみませんかという格好で呼び込むの？

○1グループ

そうですね。

○ぎょうせい

分かりました。それならそれで。

じゃあ、もうひとつそのアパートを建てるという話、これはまたシェアハウスとは別なの？

○1グループ

別ですね。プライベート重視なのか、シェアしてもいいのかという。プライ

ベート重視な方は福島町の人達が去年言ったように、一人で、どうしてもやっぱりプライベートな空間だとか時間がほしいという人はそういう需要があるんです。それはやっぱりどちらかという、内向けの方々が外に出ないようにさせるための留置方法。それとは違ってシェアハウスの場合は誘致させる時の一つのアイディア。その中で、その同じ空き家バンクの活用の仕方であったり、もう一つは、新しい町営住宅であったり、その部分の比重をこれから煮詰めていくんでしょうけれども、両方とも線で行く、というのは面白いんじゃないかなというのが意見だったんですね。

○ぎょうせい

その時に、今度は管理会社という話が出てきたけれども、建設会社とか、これはどこでリンクするの？

○1グループ

これは、私の個人的な意見になってしまうんですけども、デブロッパーが民間なのか、管理者なのかといろいろあるんですけども、僕たちの考えたシェアハウスでは、あくまでももちろん、機関のほうで調査した中で、実際ここに住んでいない人が多いと、持ち主も。そういった中で全部町に委託できるのか、ほとんどまあきびしいでしょうと。だったら、それこそ、指定管理者みたいのを作ってしまって、違う単体を作ってしまって、実行部隊を作ってしまうと、ある程度の雇用を町内に生まれながら管理させることによって、雇用と、調査とを運営していく

というシステムになるんじゃないかと思うんです。

○ぎょうせい

それは面白い発想だとは思いますが、それでも、それでその例えば指定管理者制度にしたときに、それでビジネスになるのか。

○1グループ

それ単独では難しいと思うので、他の部分の指定管理とかも一緒にしたほうが良いと思います。

団体が、単体の団体なのかこれから色々なものを作っていく中での一つの大きな指定管理者にするのか。

○ぎょうせい

何かそこらへんアイディアはないかな？例えば、指定管理者みたいに言うと、合同会議の中でまたそういうものを作ってという話になるでしょ。それはやっぱりこちらとしては、会議に出すんだから、その時にこういう仕組みを考えてもらうというのがないと。

○1グループ

たぶん、簡単にするんだったらNPO法人が一番いいと思うんですよ。NPO法人にしてしまっただけで、例えば建設業協会の会長さん方にいろいろとご賛同をいただきながら、NPO法人なんかで例えば福島住宅とか名前を付けてやらせてしまった方がいいですよ。その方が、たぶん収益の部分であったとしても、役場からも何も言われないし、外部の人がどうせ役場の人がやったんでしょとかがって言われても、NPOだから配当も何もありませんよと、すごくクリーンなイメージもあ

ると思うんですよね、もしそれで収益をあげたいというのであれば、社団化してもいいでしょうし。

○ぎょうせい

たぶん、今のはすごく面白い話だから、どっかで詰めていったらいいと思いますけれども、ひとつNPOが収益を上げちゃいけないなんていう話はないんですよ。だから社団にしてもNPOにしても、基本は一緒だから。社団だって配当しちゃいけませんからね。一般社団なら多少いいのかもしれないですけれども。だからその辺と、ひとつやっぱり心配なのは、こっちはシェアハウスにしましょう。こっちはアパートにしましょうと言ったときに、どういう仕組みでアパートとシェアハウスを連合させるとかかっていうのがね、指定管理者制度みたいな話になっちゃうと、これはちょっとつらいかもしれません。

○1グループ

指定管理者じゃない方がいいのかもしれない。何ともそれは土地柄もありますし。

○ぎょうせい

いずれにしても、そういうことを考えておいてほしいですね。分かりました。それからもうひとつ、これは参考に教えてほしいんですけれども、工務店さん。この福島町の中であって、工務店さんを辞めてしまった事業者というのはいろいかな？もう年をとったからやらないとか、マーケットがないから辞めたとか、そういう人はいない？

○事務局

最近は聞かないですね。

○ぎょうせい

わかりました。では2番目コミュニティバス。

○1グループ

コミュニティバスについてなんですけれども、ちょうど今日から福島町の方で、デマンドバスの実証実験が行われていることもあるので、まず変な話かもしれないんですけども、それが、どのような形になるのかなという話がでていました。あと、その他の意見として、スクールバス結構学校から離れているところがあるのでスクールバスとか、町が吉岡温泉の方の利用者向けに毎週水曜日と金曜日の方に温泉バスというのを走らせておりますので、そちらに対して一般の人も乗せられるような形も作れば、もうちょっと利便性が上がるのではないかなというふうな話が出ていました。あと、今実際函館バスさんが今、松前から函館まで国道沿いを走っているんですけども、そのバスに対する情報がバス停の場所とか、時刻表とか、料金表の関係が初めてこっちにくる人にとってはかなり分かりづらいというふうな話も出ていました。

時刻表とかは、役場のホームページにも出てはいるんですけども、料金表とか料金体系については、直接バス会社に聞いても、あまりいい返事というか、はっきりした返事がない場合もあるということだったので、そういうふうなバスに関する情報をもう少し

よりよく提供すればいいのではないかなという意見が出ていました。ここに対しての重要度・緊急度については、①の若者の定住住宅に比べると両方も低いという話になりました。以上です。

○2グループ

2班も同じような感じなんですけれども、今デマンドバスが走っていますので、その結果次第だという話になりました。その他として、そのデマンドバスが動くような格好になればそのデザインを、可能であれば町を代表するマスコットみたいな部分のペイントをして、色々人が乗って親しみやすいようなバスにして動くような利用もいいのかなという。結果次第なんですけれども、そういう話も出ました。あとは、有効になるのか、話題はそれなんですけれども、バス停を使う人達のための駐輪場、自転車で来る人達の自転車が倒れていたり、自転車が汚く並んでいるという格好もあるので、きれいに整備をしたらバスを利用してくれる人も増えるのかなという格好で、多少話題とは大きくそれるわけではないんですけども、そんな恰好での意見もありまして。

重要度・緊急度については、自分達の方は基本交通手段があるので、低いように思うんですけども、実際交通手段がない人達にとっては、重要度も緊急度も高い話だろうなと思って、ここは高い・高いにしています。以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございます。お互いの中でないよね、似ているから。ちょっと、ここで参考までに教えてください。デマンドバスの利用実験とは何をどうやるの？

○事務局

今日からちょうどやっています、町内の山崎ハイヤーというハイヤー業者がありまして、そのバスを使って、予約制なんですけれども、1回300円で、電話をかけてそれが時間によっては次の日になるかもしれないですし、当日になるかもしれないんですけども、その場所に行って乗って、用を済ませて、片道で用が済むのであればそれで終わりですし、というものを。

○ぎょうせい

混んでいて駄目だったら明日という感じになるのですか？

○事務局

例えば、千軒から吉岡まで第1便で、ある程度8時出発の9時到着というように、便は決められているんですよ。帰りの便も決められていて、自分の時間帯に合う便に予約をして乗ることになります。それで、その便が全く予約がないということになれば、運休ということになります。ですから、単純な巡回バスという形ではなくて、予約が入って初めて動くんですけども、その予約も便数に、何時から何時までの便というふうに決められているので、その便にあった自分の時間帯が合えば利用してもらおうということで、今日からやり始めています。

○ぎょうせい

それは、一日何便走っているんですか？

○事務局

7～8便くらいありますね。

○ぎょうせい

往復できるように？

○事務局

朝8時から夜は夕方6過ぎくらいまでやっていますね。

○ぎょうせい

それともう一つ、スクールバスはどういうふうに走っているんですか？

○事務局

スクールバスは町のバスを使って、学校の用務員さんだったり、町の職員が走らせています。それは、学校統合で閉校になったところの生徒さんの足の確保ということでやっています。

吉岡の中学校も今年閉校になりましたので、その中学校の生徒さんも福島中学校の方へ連れてくると。あと、小学校の方は、白符地区の小学校が統合になったので、それを福島まで連れてくる。それに乗るのは、吉岡の中学校の生徒さんと、白符中学校の生徒さんが吉岡方面から福島の地区までスクールバスで来るということなんですけれども。ちなみに先ほど言った、温泉バスの一般混乗というのは、スクールバスはもちろんやっていませんし、温泉バスの一般混乗というのもしやっていないんですよ。

○ぎょうせい

それは、やらない理由はなんなの？

○事務局

便によってはあふれちゃいますので、ですからそれはちょっと無理だということなんですよ。温泉バスをやり始めたのが高齢者だったり、自分で移動手段の確保ができない方のサービスのためみたいな形でやっていたので、そういった部分からも一般の混乗はしていないという形です。

○ぎょうせい

たぶん、今回は定住促進ということで、ここでは若者ということでやってもらっているからあまり気がつかないけれども、申し訳ないけれどもここも過疎ですからね。今一番大きな、もう国の問題になってしまっているのは、買い物難民、交通難民ですよ。高齢者で車が運転できない、あるいは車がない。こういう人達が家から出られない。そういう現状というのはあまりこの福島はないんですか？

○事務局

中にはあるのかなという感じはします。買い物するにしてもですね。ですから今回福島地区なんかはデマンドバスとは言っても、福島地区に限っては情報場所を制限させていただいた経緯があるんです。その中で、情報場所の一つとして、コープさっぽろさんの方にもお願いして乗っていただいたり、降りていただいたり。それは、今さっき言ったように買い物の部分、通院通学これは今回年齢性別、そういった属性で制限を全くかけないでやりましょうということをやっていますので、ただ、主に乗るのは高齢者の方だろうということで、先ほど言

ったように買い物に出歩くのも大変な人もいるだろうということで、福島であればローソンだったりコープさっぽろさんであったりというようなところで乗り降りという形でやっています。

○ぎょうせい

あと、ちょっと気になったのが函館バスの時間とか乗車状況とかというのは、町で調べていますよね。そういうのをどこかで教えてください。

それでは次③インターネットお願いします。

○1グループ

③のインターネットですけれども、まず出たのが光ファイバーの整備。あとは、公共でフリーに使える wi-Fi スポットの設置、あと今はクロッシェとか携帯電話の方、無線の方で使える部分の整備の要望という話がありました。実際、これらの整備についてはお金もかかるだろうという意見もありましたので、いかにこういうふうな整備をした部分が使えるソフトですね。そっちの方が整備をするよりも重要ではないかというような意見がありまして、そちらの活用については、ビデオオンデマンド、今結構テレビとかでもそういうふうな設定と設備のあるものも、多くなっていますのでこちらの方はビデオレンタル屋が少ないという意見もありましたので、こういうビデオオンデマンドの活用とか、あと医療分野の活用ですね。遠隔地医療とか、遠隔地検診ができるようなシステムの整備ですね。あと、実際その

光ファイバーを整備しても、実際使う人が少ないと、そうすると自治体も撤退とか、そういうふうな街が整備して町が企業に貸して、企業がそのサービスを提供すると。

その町が整備したところも委託というか、補修費については町の方が負担するというような、そういうふうな体制もあるので、より多く利用者というのは確保しなければ、という意見もありましたので、ニーズの掘り起こしのためにも、高齢者とか向けのIT教室をもう一回開いてやっぱりインターネットは便利だよというような、そういうふうなもう一度再認識ですね。

今結構、パソコンとかスマートフォンとか、別の形でのインターネットというような利用方法も結構出てきていますので、そういうふうなものを含めたIT教室を開くと。

あと、光ファイバーを有効的に使うためにはIT企業、そういうふうなコンテンツですか、ソフト事業とか、実際そのパソコンとか、インターネットさえ使えば、ある程度事業ができるというような企業ですね。それを誘致したほうがいいのではないかなという話が出ていました。

重要度と緊急度については、どちらも高いというような意見です。以上です。

〇2グループ

すいません、また似たような格好に。基本は、光ファイバーは当然ないよりある方がいいという格好で思っています。そういう格好の話の進め方で、

一応利用する部分でもすべての分野で利用できれば一番いいんですけども、コストが高いという部分がありますので、そこは町なり通信事業者なり、どのようなニーズがあるのかという部分で進めていかないと駄目だという部分では、それは今現在進行形で動いている話なので、そこはそういう部分で出てくる話だと思います。基本の部分で同じ内容の話になるんですけども、基本的に使う人がいなければいいものがあってもどうにもならないという話になります。徐々にでも使うような人をうちの方でニーズの把握をしたところ、インターネットの環境を利用している世帯というのは400あればという格好なんです。いっても、今の2300あるうちの500なり、そういう部分がいつているのかなという状況なので、全世帯が使えるまで、一応希望としてはそういう格好での、これだけ便利なんだよというところのソフト的な展開をしないと、実際宝の持ち腐れになるのかなということで、同じような内容なんですけれども、勉強会なり研修会なりを月に1回なり、1週間に1回はなかなか難しいと思うんですけども、そういう教室なりを開いてやって、地道に伸ばしていくことが必要なのかなと思いました。

あとは、これも補足というか、後々進んでいった部分での話ということで、いろいろ今の時代では思ってもいないようなことで人を呼べるということで、先日ニュースにもなったんで

すけれども、ニコニコ動画で長万部町に2000人なり集まって、そういう人を呼び込む事業をやっていました。そういう部分の意見が出た中で、先を越されたなという話は出たんですけども、そういう思ってもないような部分が今の時代は、うけたりという部分もありますので、そういうインターネットを使った、高度化すればそれだけ色々な効果がでるのかなという。そういう事業ができるような話になるんですけども、ちょっとまとめ方が難しいんですが、そういう話も出ていました。その後の展開が大いに期待できるというまとめで終了したいと思います。

重要度・緊急度については、重要度は高く、緊急度についてはソフト的な面をどうにかしていかないと、それが高いというのか、自分は重要度は高く緊急度は中にさせていただいていました。以上です。

○ぎょうせい

ありがとうございました。インターネット環境があれば、色々な情報があればこれはいいですけども、問題は、これも言葉使いを気をつけないと言われるんですけども、ITを使えない人がいるんだよね。IT弱者という。こういう人たちをさっき言ったように、やっぱり取り込むためには、教室をするなり、利用すれば便利だよという普及活動を先に。先か後かということもあるんですけど、ある一定の規模でやっておかないと、これは投資はしたけれども、皆が使わないというのは出

てくると非常に問題かなという気はしますけれども、でもこれは重要なことだと思います。次、情報バンク。

○1グループ

情報バンクについては、すいませんあまり話しができなかったです。

○2グループ

うちの部分については、若干以前話をした部分とかぶるところがあるんですけども、町で集めている求人情報なり空き家情報なり、町ではメールマガジンという部分でやっていきますので、それで情報配信という部分。それが必要か不必要か登録をしている人によるんですけども、そういう部分の情報提供の仕方もあるのかなという部分で、意見もありました。あと、もう一つ。

町の方でも情報とか空き家バンクにしよ、求人情報にしよ、色々ものはあるんですけども、それを利用する人達の部分がうまく利用できないという部分の、一応は若い人達の定住という部分もあるんですけども、その定住促進の部分で若干年配の人達もそれに含まれようとしたときに、高齢者の人があまり町の情報をうまく利用できていないのかなという意見もありまして、そういう部分は原始的な手法になるんですけども、若い人が潤滑油になってそれを行政につなげるというそういう制度をうまく使えるような仕組みづくりを進めていくようなことも必要ではないのですかということで、意見がありました。

いずれも、これも重要度・緊急度、

高い・高いになっていました。

○ぎょうせい

これは、一番最初に僕が言ったんですけれども、1回目の時に議論をしているところがあるじゃないですか。今、町でやっているホームページの紹介。これはこれで重要なんだけど、何でもかんでも町のホームページの中に入れるというのは、使う人からすると堅いイメージもあるじゃないですか、かえって新しい組織。例えば、商工観光の中で、そういうものを一括して、一時情報を集める。前は情報ステーションがそうでしたよね。一時情報は全部そこへ行けばいいと。しかし、個別の施策面でいったらこれは町がやらないといけない。そういうところに、一緒に組み込んでいいかな？町は町で、どっちにしたってホームページにそれをだしておかなければいけない。でも、その前にもっと身近なところで何かを。それは何かというと、インターネットを使ったり、何かすることができない、嫌だという人がいるわけだよね。そこまでいって、何かしないといけないとか。いいですか、まとめて。

○2グループ

はい。

○ぎょうせい

では次、町環境美化。

○1グループ

⑤の街環境美化についてですけれども、今でもうちの町もゴミの減量化とか、ゴミのポイ捨てについての啓蒙・啓発もやっているんですけれども、

いずれにしてもなかなかゴミのポイ捨てというのが減らないというのがありますので、毎回春と秋にゴミの一斉空き缶拾いとかやってはいるんですけれども、その部分についても空き缶以外の粗大ゴミとか、基本的には粗大ゴミの方は、無料で収集してはいるんですけれども、それなのにもかかわらず、自転車だとかそういうふうなゴミが出ているという意見が出ていましたので、そういうゴミ対策をもう少し啓蒙・啓発をしたほうがいいのではないかという意見がでました。あと、街灯に関してなんですけれども、今回津波とか地震の災害活動に合わせて、後は今ある環境対策に合わせて、たぶんこれから街灯のLED化がどんどん進んでいくと思うんですけれども、その街灯に関しての太陽光とか、地下発電ができる設備を作って、例えば停電の時には街灯だけが光っていて、その光の先をたどっていくと、避難場所に誘導できるようなシステムというような街灯整備をしたほうがいいのではないかというような意見がでました。あと、道路の関係なんですけれども、直接町の方の整備ではないんですけれども、今江差とか函館から木古内をって江差に向けての高規格道路を建設しているんですけれども、函館から茂辺地、北斗市の途中まで今伸びているんですけれども、これが木古内まで完成すると、この課題2の方の医療機関への通院等の支援というところも絡んでくるんですけれども、その道路が完成すると、もっと通院とかそ

ちらの方が便利になるという話になると思いますので、高脚道路の整備をお願いするというような意見もでていました。以上です。

○2グループ

第2グループは、環境美化ということで、今まで通りボランティアの清掃活動を行うという部分と、あとは観光の方にも若干絡んでくる話になるかもしれないんですけども、環境美化という点で、国道の方にみせる木、例えばそれが桜になるにしろ、そういう目立つような部分で、この町はきれいだなという活用も、ありではないですかということでありました。どうせやるんだったら、国道とかの目に見えるような格好の、交通量が多い方がいいと思いますので、そういう国道とかっていう部分で指定をさせてもらいました。

あと、これがいいのかどうか分からないんですけども、町の部分である程度今は悪い所に来ているような風景があるんですけども、プラスかマイナスかと言ったらマイナスの方になるんですけども、それをあえてマイナスで売り込むという意見が出ていたんですけども、それがいいかどうかはちょっと分からないんですけども、一種の資源という言い方がいいのか分からないんですけども、そういう部分での意見もありました。いい意味で言えば、古き良き風景を活かすという格好でまとめにさせてもらいました。重要度・緊急度の部分で、どちらとも中だろうということで、位

置付けしました。以上です。

○ぎょうせい

はい、ありがとうございました。これはちょっと、町の環境美化というところでいくと、広報で見たんですが、女性会かどこかが花壇を整備するというのをやっけていまいしたよね。今それ、2グループの中に入っていました？というのは、何をいいたいかというと、そういう活動を各地区がやるという形にするというようなことが、議論されているかどうか、例えばそういう活動をやっている人達と、どうタイアップして町の環境美化をするか。ゴミ拾いをしましょう、空き缶拾いをしましょう、1年に1回運動をやったり、半年に1回運動をやってもこれはなかなか町はきれいになりませんよね。せっかく花壇整備をしたグループの人達、僕はホームページの中だからよく分かっていないんですけども、そういうものをどうやって皆さん方だったら、この町全体の環境作りに活かしていくのか。例えば、身近な公園が足りないというのが前回あったじゃないですか。町の公園が足りないということで私が案を出すと、これは町のその使う人たちに養子に出すと。そこを維持管理してくださいと。そういうことができるところには、そういうものを作りましょうと。花壇でもお花でも、何かそういうことをしましょうと。例えば、高齢者の生きがいづくり、というけれども、高齢者の人達にそういう花を育ててください。これは、種を渡すなんてお金がかかる話じゃない

よね。それは、若い人達も、町の側道のところに植えますとか、あるいは子供たちの教育とタイアップしてそういうのをやっていきますとか一つのことを、年代がつながるようにしていくということが重要ですよね。そうすると、そのことによって意識が変わって来れば、空き缶だって町内の人達は煙草の吸殻だって捨てないと思います。外から来た人だって綺麗なところには捨てませんからね、基本的には。そうすると、大きな事ではなく身近なところから何かやっていけば、結果としてそれは大きな事につながられるという発想が重要だなという気がします。

今、広報に書かれていることを皆が少しずつ協力をしてくれたりなんかしていくと、この町はいいことをいっぱいやっているんだけれども、残念なことにつながっていないんですよ。ばらばらになっちゃっている。そんな気がします。

それから、課題2の医療環境の整備のところでもう一回お願いします。

○1グループ

課題2の医療環境の整備なんですけれども、先ほどのところとかぶるんですけれども、今、小児医療とか、産婦人科の専門の部分が函館しかないものですから、それに通う面というのは先ほども話をしましたけれども、高規格道路の早急な整備を要望していくというのが意見として出ました。あと、実際に小児科とか産婦人科とかの夜間にかかる場合ですね。緊急の体制

として、医療タクシーというか搬送タクシーとか、そういうタクシーを使った場合にこちらの方でクーポン券とか、回数券とか金額とかそういうふうなのは色々あるんですけども、そちらを発見して、すぐタクシーを呼んで、すぐ町の方に出るような体制をお金の面とか気にしないで、一人でもできるような体制作りをしたほうがいいのではないかというような話がありました。あと、福島町にはないんですけども、松前町とか木古内町に国保病院と町立病院があるんですけども、そちらの方に小児科と産婦人科、小児科は記憶が定かでなくてすみませんけれども、たぶん常設の小児科とか産婦人科がないと思いますので、函館よりも近い松前町とか、木古内町の病院ですね。産科とか、小児科を常設してもらえるように町が協力体制をとっていくというふうなことが必要ではないかという話がでていました。重要度と、緊急度は両方とも高いという意見がでていました。以上です。

○2グループ

これも全く同じで、何も言えることがないんですけども、高規格道路の早期整備要望をしないと、という格好で、意見の中で病院を建ててくださいという意見が出るのかなと思ったんですけども、うちはそういう面では難しいなというような内容を皆分かっているような格好で、そういう意見は出ませんでした。交通手段の部分である程度、高速道路なりの部分で近いとなり町に病院があるので、そこは一

般国道なんですけれども、そういう部分でのある程度救急車の輸送の部分での話と、今後近隣町でのすまない部分での話しかなくなるので、その部分で高規格道路という話が出ていましたので、そういう話で高規格道路の早期整備をとという話になりました。

重要度・緊急度についても実際は命にかかわる話になりますので、共に高いということで、まとめました。以上です。

○ぎょうせい

これもちょっと気になるんだけど、女性群からやっぱり子供を産む、妊娠した時にその子供を産み育てられる環境で、病院がないというのは心配だというのがあって、なかなかここで生活をしにくいんじゃないかという話がありましたよね。その時に、高規格道路を作ってもらおうという話だけど、そんな短期でできる話じゃないよね。今この町は短期のうちはどうするかということですよ。それで、ここにも書いてあるように消防署と連動したとあるわけだよね。今、こっこのチームが言ってくれた医療タクシー、その医療タクシーが今動いているんですか？そういうことをやったらどうですかということですか？その医療タクシーをやるというのをやっぱり消防署と連動した中で何ができるかということが僕は考えてほしかったんだよね、実は。それは医療タクシーの人だって毎日準備しているわけではないし、じゃあ夜中やっているタクシー会社がこの近辺で何社ある

か。当番制にするとかなんとかってありますよね。あるんだけど、それにしても一時通報はやっぱり消防署だと。救急車がこの場合出て行ってしまうと、これは大変で函館まで行ってしまうと、何台この町に救急車があるか分かりませんが、それはまた大変なことになると。それはやっぱり医療タクシー的なものが必要になる。でもやっぱりそれは消防署と連携をしていないと、なかなかお母さん達だって安心できないんですよ。だから、そういう仕組みを考えてほしいというのが一つあるんだよね。

バスもそうなんです。デマンドバスをやってもいいし、スクールバスをやってもいいし、温泉バスをやってもいいんだけど、そういうものをお金がないとできない。だけど、できるような仕組みをつくるためには今何ができるか。そういうことが今ここで、特に若い人達だったらあまり規制だとか離れて、いったんこういうことをやれば便利になるんじゃないのというところから話を始めないと、規制で駄目だとか、何が駄目だと言っていると、今までやった行政の人達はまちづくりを一生懸命やってきたわけだから、それが法律とかいろんな規則で、できない部分だってあるわけだよね。やっぱりせつかくフォーラムでやっている以上は、こういうことならできるんじゃないか、とかああいうことならできるんじゃないかというその、まず法規制があるからじゃなく、ないという前提でやった時にどうするか、じ

ゃあそこに法規制があるからその法規制をどうやってクリアするのか、こういう発想を持っていただいた方がいいのかなという気が、若干します。次、今度は地区の方をお願いします。

○1グループ

ここについては、あまり議論をする時間がなかったのもあるんですけども、基本的な場所については、今の横綱街道の商店街がコアな地域になるだろうということなので、そこについてもワーキングスペースというか、フリースペースで自由に役場とか、民間でスペースを持って、一日単位とか1週間単位とかそういう方法はあると思うんですけども、そういうふうな単位で仕事が、そこにいて自分で仕事をして、簡易企業をできる場所を作ってはどうかとか、あとは、他の町でやっていることなんですけれども、その商店街で100円市を定期的を開いて、参加者が自由に参加をできるようなフリーマーケットの歩行者天国を商店街でして、自由に商売ができるような場所にしたらどうかというような意見がありました。あと、その商店街の一角ですね、これも前に話が出ていたと思うんですけども、高校生が定期的に、実践授業ができる場所ですね。福島商業高校が放課後、3時から6時くらいまで毎日、そこを使って実習といいますか、模擬商売というようなそういうふうなスペースをプレハブ程度のスペースで構わないと思うので、できる場所を作ったらどうだという意見が出ていました。

すいませんけれども、時間がなかったのでここで意見はとどまりました。以上です。

○2グループ

2班の方では、横綱街道が中心市街地ということで、その話になります。今、一応状況としては、空洞化になっています。どちらかといえば、このまましぼんでいくような雰囲気を取られがちな部分があるので、一度実際商業を行っている皆さんが、集まる機会を作って、市街地の活性化をどのようにしていくかという計画作りをしないと駄目だなということの意見をひとつと。あともう一つが、今度その空洞化している部分の利用ということで、ショップ経営のPRを行うということで、似たような内容にはなるんですけども、そのどういうふうなPRをするんですかということで、パンフレットの作成でここが起業パンフレット、起業誘致パンフレットみたいな恰好で、この土地はどのくらいのお金ですよとか、会社を興すまでどのくらいの金額がかかりますよと事細かな情報を提供してあげると、今実際やりたいという部分の人も活用してくれるんじゃないかなということでの意見も出されてきました。

重要度・緊急度についても実際の部分では、重要度は高いという格好になっていて、緊急度も同じく高いという格好でうちの班ではとどまりました。以上です。

○ぎょうせい

これは、ここだけで単独で何か議論

をするというわけにはなかなかいかないので、前回だか前々回だかで、道の駅の話が出てきましたよね。そういうもの。

それと、さっき出てきた高校生のチャレンジショップ的なもの。もっと言うと、高校生じゃなくても若い人達が、福島に帰ってきたいという人達がもし居た場合に、今飲み屋街、何とか横丁となっているけれども、飲み屋街じゃなければいけないということでもないので、福島横丁は若い人達のショップ、集合帯だっていいわけですよ。ここは、色んな考え方があると思うので、少し議論しないといけない。ただ、そのためにはフォーラムは、こういうところはそういう形にしてほしい、ああしたらどうかと、この福島のこの町の中心はね。千軒はこうしたらいいだとかいうのがあれば。たまたま僕は来る時にいつも思うけれども、千軒そば屋が最近国道沿いにできているけれども、あれひとつだとなかなか人は呼び込めない。今、凄く売れているようだけど、外の人にはなかなか呼び込めない。でもそういう人達がこの中心部でやるという仕組みさえ作ってけば、一つのところに資源が集まっていくことになるわけですよ。これが道の駅になるかどうかは別として。

道の駅だって、考え方によっては皆そうですけれども、地域の人達が野菜を持ちこんで何かやっているわけだから。若い人は絶対野菜をやるということではないから。この地域をこういうふうにするんだというイメージを

明確に持ってほしいというのが。何かそういうのがフォーラムから出てくるとありがたい。じゃあ、次吉岡。

○1グループ

吉岡地区についてなんですけれども、吉岡地区についてはやっぱり中心になるのはやっぱり旧吉岡小学校、今の吉岡小学校、温泉、この1点がやっぱり中心的な地域になると思います。ただ、旧吉岡小学校については、以前も話に出ていたかと思うんですけども、築40年以上。結構古い建物ということで、なかなか再利用するのは、難しいだろうなというふうな意見が出ていました。もし、仮に今吉岡支所というのが別のところがあるんですけども、もし、吉岡支所が建て替えとか、そういうふうな話もし出てくるのであれば、その福島小学校の部分の1帯が、基本的に学校とかがあるので、集まると言えばそこというふうにしたぶん。近くに温泉とかあるので、人口的には密集地域にもなって、そういうふうな話にもなっているので、なるべくコンパクトな部分ですね。今の学校と、温泉。その地域の部分をコアにして整備をしていったいいのではないかという話が出ていました。あと、もうひとつは吉岡温泉についてですけども、せっかく温泉に来ているんだけども、なかなか食べるものが自動販売機とかそういうふうなものしかないということで、せっかくなのでこの温泉に何か軽く飲食を提供できるものを増設できるのであれば、そういうふうな建物を増設したほうがい

いのではないかという意見も出ました。以上です。

○2グループ

うちの班のほうでは、やっぱり温泉がありますので、吉岡の方でそれを町外から来る人、うちでちょっと親しくさせてもらっている人達が皆さんというのは、何で温泉があるのに、宿泊施設がないのという格好で言われる方が結構います。その部分で吉岡小学校はあるんですけども、その建物は使えないという格好になっていますので、それは有効利用できませんので、それに代わる新規になるのか、中古になるのか、温泉とセットにした部分の内容は必要だと思っています。あと、吉岡地区といえば、水産が福島地区もそうなんですけれども、水産も大きい部分なので、例えば温泉の方でそれが可能かどうか分からないんですけども、温泉と水産を結びつけた食の部分になるんですけども、そういう提供も付けたほうが面白いかなという意見を、自分の意見なんですけれども、そういう格好で言わせていただきます。重要度・緊急度についてもどちらも中なのかなということで、こちらの班ではまとまりました。

○ぎょうせい

ちょっと、今日は町長さんがいるから言いにくいんですが。発想があまりにも止まっているんじゃないのと。

というのは、小学校が僕は去年見に行ったときに、小学校なんて、あんないいところ廃校にしちゃってどうするのと、いう話を確かしたと思うんで

すが、その後耐震構造がどうかって使えない。でもですよ、使えないので建て替えというのがなくて、若い人達はあれを建て替えようというのを、使えるような施設として建て替えるというのが、本当はこの会から出てほしいなという気が実はするんですよ。

今日は役場の職員の人が多いから、財政事情も分かっているし、色んな事があるからということになるんだと思うんだけども、例えば学びの館というのがここにするとね、若い人たちチャレンジショップをやろうと思っても、高校の授業だけでいきなりチャレンジショップができるわけではないんですね。若い人達に店をあげるからここでやりなさいと言ってもできるわけじゃないですよ。

お母さん方に何かここで店をやってみたら、カフェをやってみたらといっても、できるわけじゃないですよ。ちょっとそういうものを例えば福島小学校を学びの館という格好で建て直して、子育て支援から企業育成。ようは、起業家養成からあるいは店の実際の運営を含めて、あるいはもっと言うと、高齢者の人達がこれから外で活用することにするためには、何かをしないといけない。ということ、考えていくと、ああいう学校を何が一番いいかというと、それは建て替える時には新しい発想で建て替えるんだけども、教室が何個かあれば、違うものが入られるんですよ。違うもの、要するに異業種交流ですよ。異業種交流をようするにどこでやるかというの

が、非常に重要なことであるんです。千軒そばをやるからといって、千軒そばをやったときに、千軒の地区に行ってやることもいいことですよ。でも、そこに行く前にはそれをやる手段として、まず小さくどっかに集めて、そこで、きちんとした体制を整えて、今度は観光資源として千軒を売っていかうというときに、そういうものをまたつくるとかっていかないと、やっぱり今までのようにばらばらに投資をすることになってくると、なかなか投資効果が得られない可能性がある。

そういう、その投資効果が得られるか、得られないという議論は、もっと大人にしてもらえばいい話で、自分たちが初めからお金がないからこれを言っても無理だよねということで始まってしまうと、なかなかね。それは、法律があって規則があったらからダメだよねといってこれはなかなかならない。そうすると、それは何かというと、前にも言いましたけれども、どこかの先進事例を見に行かなければいけないわけですよ。先進事例を見に行った時には先進事例ではなくなっている。そのことを利用して、じゃあ何をやるかというのをフォーラムでは、僕はずっと言ってきたつもりだけど、考えてほしいというのがあるんです。

そんなバカなことを言ったって、仕方がない、駄目だよといわれるような何かフォーラムから提案をしていかないと、また合同会議の時と同じようなこれは言ったか、ああだのこうだの

言われる。それを打破するのは、全く発想を変えていかなければ駄目ですよ。これも一番最初に言ったんだけど、都市でやっていることを真似しちゃダメなんですよ。都市でやっていないことをここでやらないと、差別化できないんです。都市でやっていることをマネしたって勝てるわけじゃない。便利性から言ったってなんだって。まず、いつどこで誰が何をって6W2Hの話をしましたけれども、そういうこともね、なかなか回らないですよ。ということがちょっと今日はテーマ的にそういうふうな大きなテーマだったりするから、やりにくかったとは思いますがけれども、できればそういうことを最後の素案作りの時にまた、たぶん事務局のほうから皆さんの方に回ったりすると思いますから、その時に、意見を付け加えてほしいと思います。

今日は、このへんで終わりにして、次回合同会議に出すように今日の会議の整理をして、もうちょっと今度は素案の方に近づけるためには、発想をもう少し変えていただく必要があるんです。という気がするんです。

あれはああなっちゃっているから駄目じゃなくて、ああいうことをやってもダメなんだから、違うことをやる。ということです。

以上ちょっと最後まで私の意見になって申し訳なかったんですけども、今日はこれで一応今日のフォーラムは終わりということにします。

○事務局

皆さん長時間、ありがとうございました。とりあえず、今日の部分でひとしきりということで、残された会議については、今月末の合同会議と、素案の部分での最終調整ということで、10月に会議ということで、残り2回の皆さんの方に協力をさせていただきたいという格好になって、一応今の現状の予定ではそういうような格好になっています。

一応、9月のまちづくり合同会議は最終週で、のちほど決まり次第資料を含め皆さんの方に回覧しますので、また協力、隣近所の人にも出ませんかということで、一応をご案内の方を協力お願いします。自分が言っても出てくれないので、皆さんが頼りになっていますので、声かけをしてもらえれば、ということで思います。

今日、最初から最後まで町長に居てもらいましたので、長町の方から、簡単でいいですので、感想をお願いします。

○町長

本当に長い間ご苦勞様です。ただただ、頭が下がるだけでございます。貴重な意見、私の方も聞かせていただきました。それに対して、厳しい先生の意見もありました。でも、これは絶対に無駄にならないと思っていますので、これからもどしどし福島町を良くするために意見を出していただきたいなと思います。本当に今日はご苦勞様でした。

○事務局

それでは、本日の会議はこれで終了

という格好になります。次回の会議の部分は9月末ということで、頭に入れてもらえればまたご案内さしあげますので、次回もよろしくお願いします。以上で第3回の町民フォーラムを終了させていただきます。長い時間ありがとうございました。